

# 米子城 — 建築史から見る史料 —

## 絵図

幕府に申請した**修理願**いの控え図  
幕末になると石垣や建物の修理をたびたび願っている  
基本的には**稚拙**な表現だが、**写実的**なものや、**建物寸法**が記されたものがある



「米子城修覆願絵図」(元禄3年)  
鳥取県立博物館蔵 整理番号1001  
天守の屋根と三の丸石垣の修理願



「伯州米子之図」(江戸中期)  
鳥取県立博物館蔵 整理番号997

各階の寸法が記載  
 <大天守>  
 一階 10間×8間  
 二階 10間×8間  
 三階 6間×7間  
 四階 3間×2間半  
 五階 3間×2間半尺  
 棟高 66尺9寸  
 <小天守>  
 一階 6間×7間2尺  
 二階 6間×7間2尺  
 三階 2間×2間  
 四階 2間×2間  
 棟高 50尺6寸



「米子城城門正門之御絵図面」  
(弘化4年)  
鳥取県立博物館蔵 整理番号1030  
数ある絵図の中で一番写実的なもの

## 古写真

明治9年(11年とも)頃  
に山本良種氏が撮影  
木々の間に**大天守の妻面**  
(側面)がうっすらと写る  
手前には**小天守**  
はすでに取り壊されている

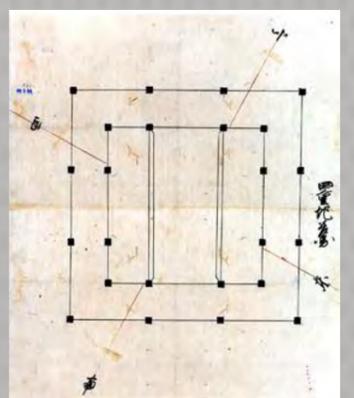
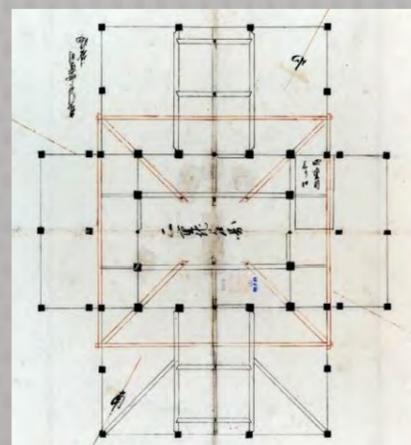
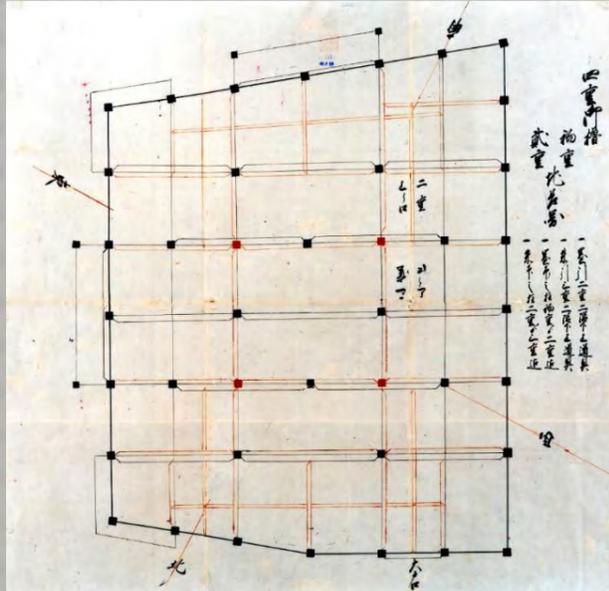


唯一の1枚

## 指図

現在の**設計図**に類するもの  
小天守に関しては**嘉永5(1852)年**の石垣修理時に指図がある  
各階の平面図と「**建地割図**」と呼ぶ立断面図がある  
建物の概要を知ることができる**1級史料**

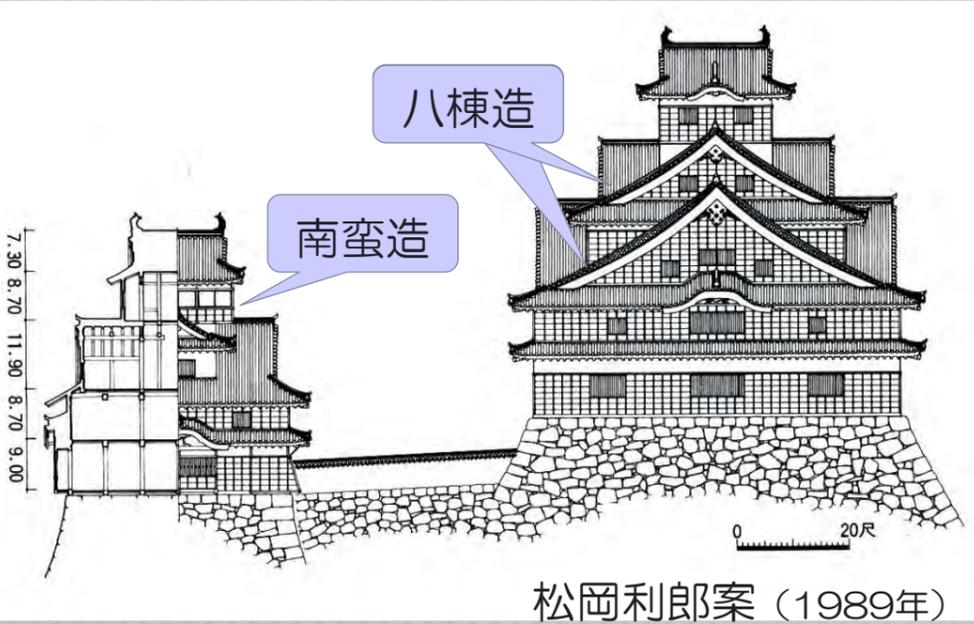
天守の指図は全国的にも珍しい



「米子城四重御櫓地差図」(弘化4年)  
鳥取県立博物館蔵 整理番号1033~1036

# 米子城 ー大小天守の復元研究ー

米子城天守に関しては、全国的にみても**十分な史料**が残っているので、大小天守でそれぞれ2度復元研究が行われている  
特に小天守に限ってはほぼ**完全に復元が可能**である



松岡利郎案 (1989年)

出典：『山陰の城』小学館

米子城天守研究の**先駆的**な成果

「米子城四重御櫓地差図」と「御天守」に描かれた形状を**忠実に再現**

特に大天守は上からみると棟が「米」字に交差する「**八棟造り**」と呼ばれる複雑な屋根が特徴的

小天守は四階が三階より大きく張り出した「**南蛮造**」が特徴的

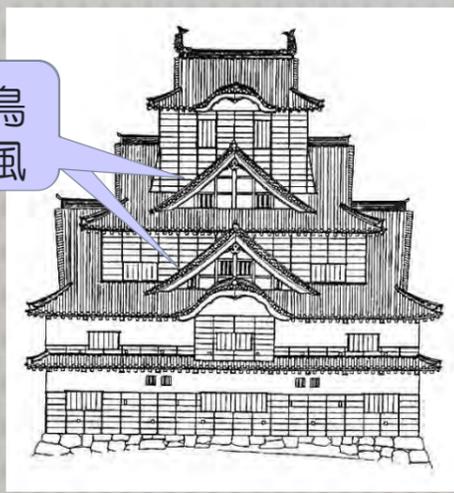


「御天守」 (弘化2年)

鳥取県立博物館蔵 整理番号1031



千鳥破風



三浦正幸案 (1992年)

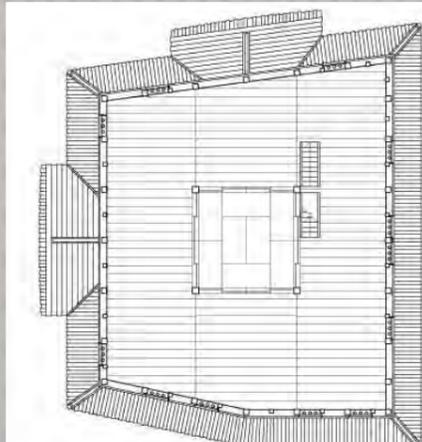
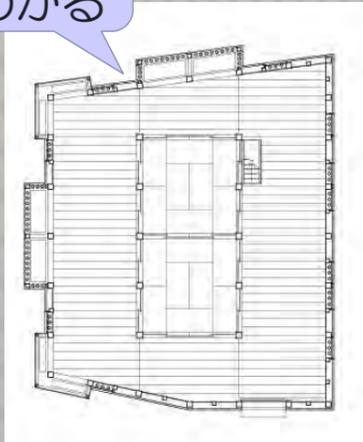
出典：「伯耆米子城天守の復元」

松岡案の大天守を新たな史料解釈を加え**合理的**に修正

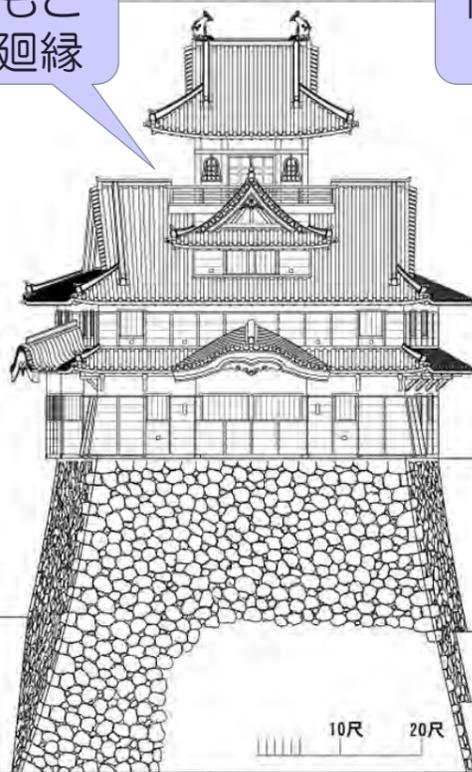
最上階は**廻縁**を板壁で覆って内側に取り込んだため、ひとまわり大きく修正

二重目・三重目の屋根を「八棟造り」ではなく一般的な「**千鳥破風**」として描く

内部もわかる

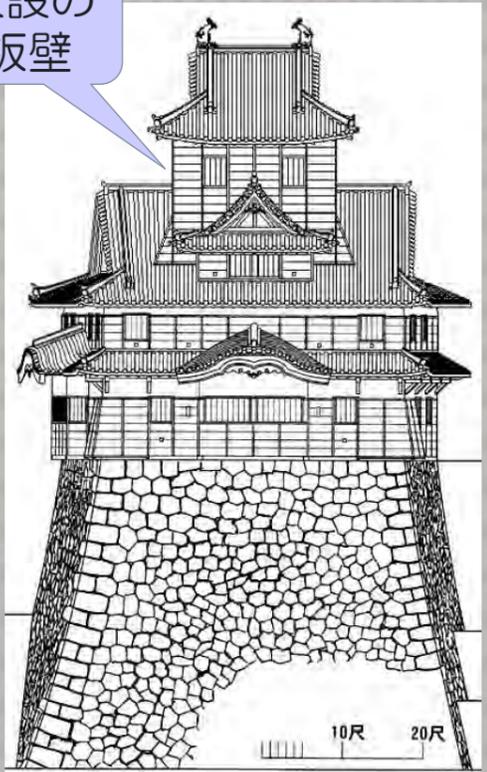


もと廻縁



創建時

仮設の板壁



幕末時

「米子城四重御櫓地差図」に新たな解釈を加え小天守を精密に復元

大天守と同じく小天守も幕末に最上階の廻縁を**板壁**で覆って取り込んだものと解釈

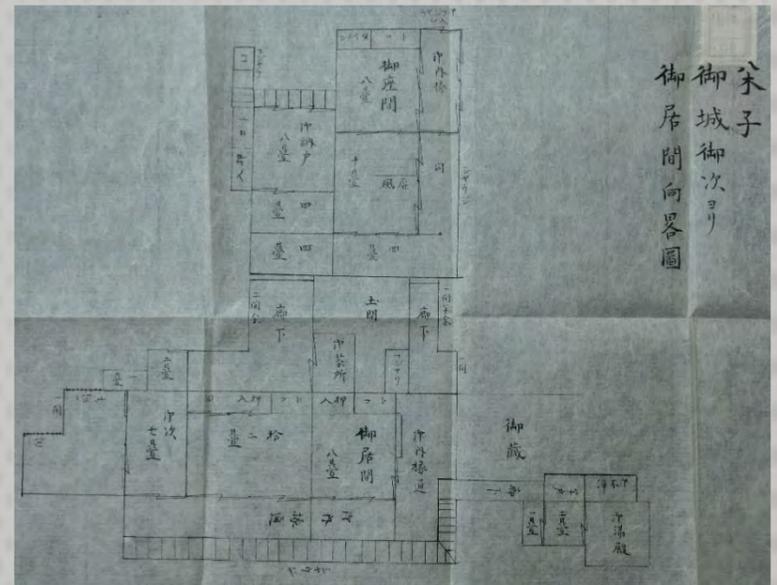
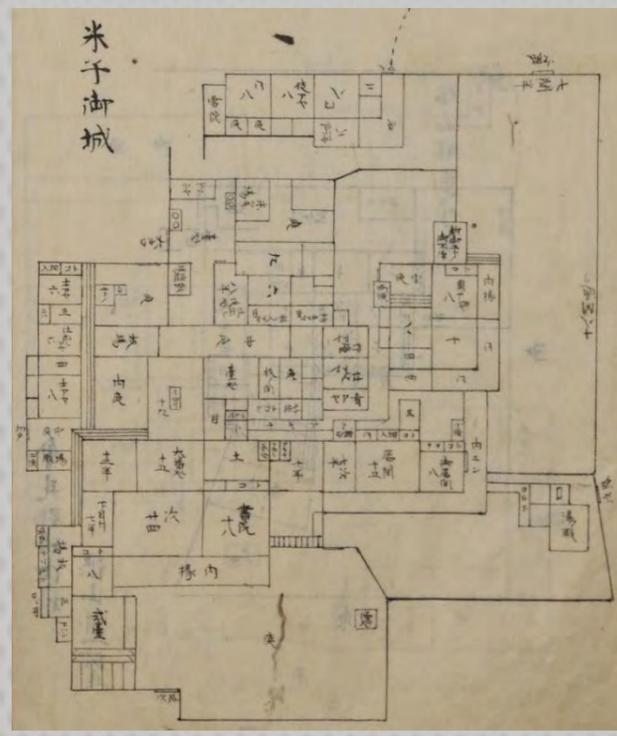
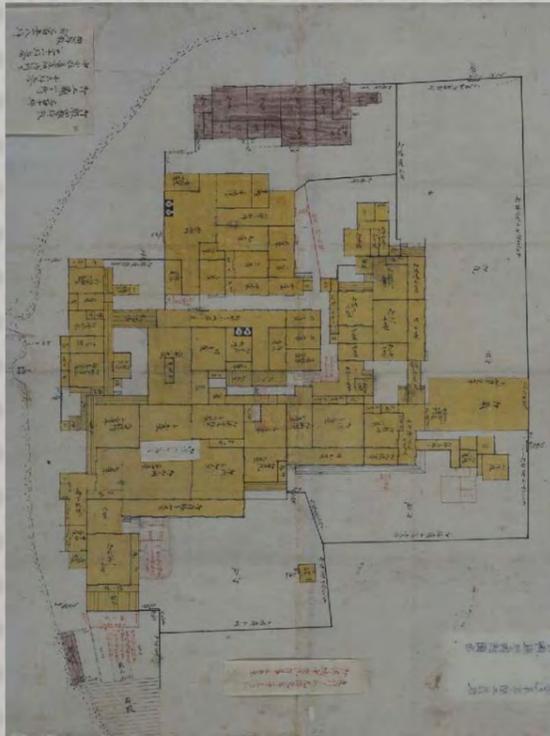
幕末時 (**改造後**) と創建時 (**改造前**) を復元

金澤雄記案 (2004年)

出典：「米子城小天守 (四階櫓) の復元」

# 米子城 一 二の丸御殿の復元研究 一

米子城二の丸御殿に関しては、幕末期に描かれた指図が3枚あるため、**空間的な復元**が可能である

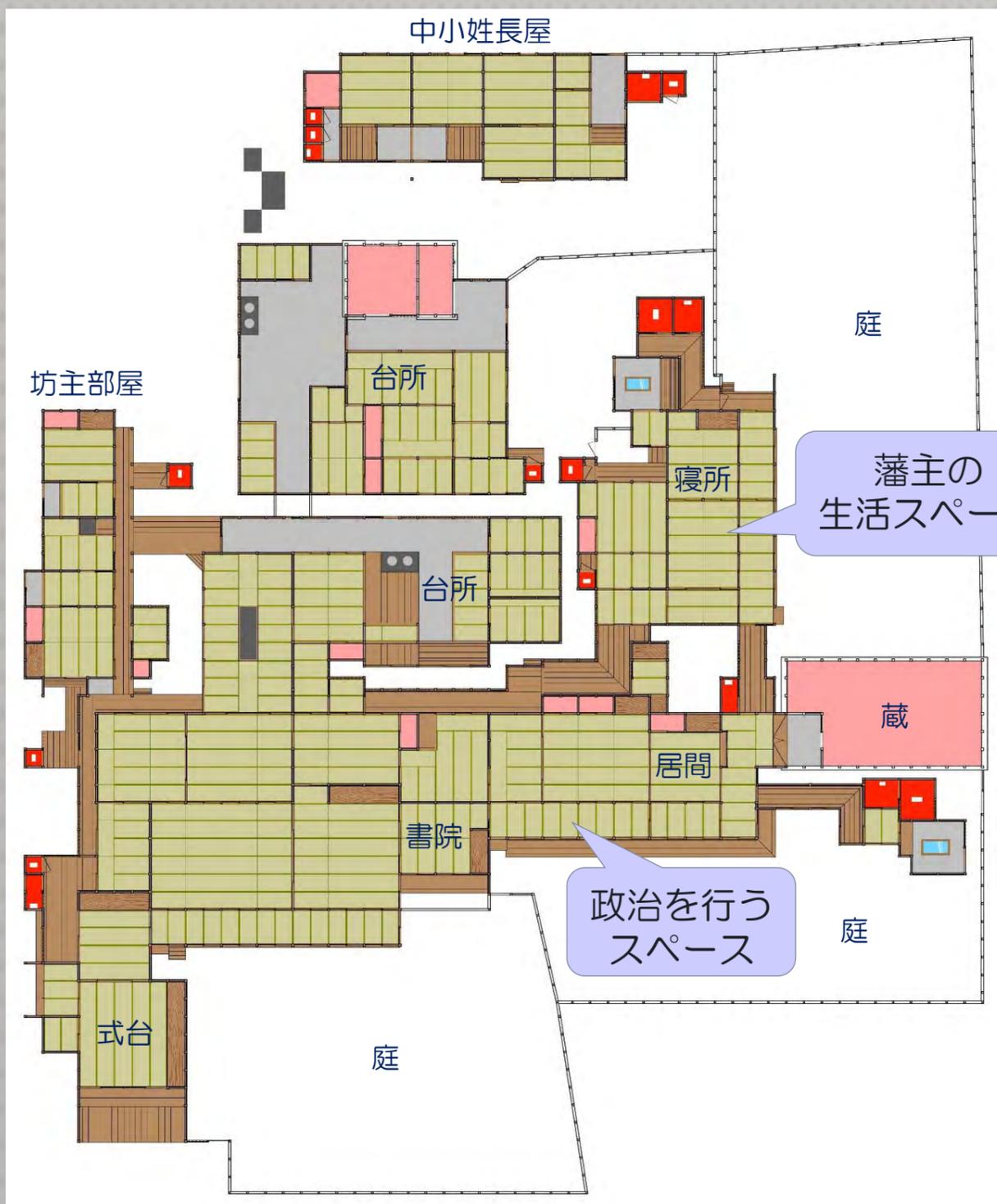


「米子御城内御殿惣絵図面」  
(慶応元年) 鳥取県立図書館蔵

「御巡国御休泊御本陣略図」  
鳥取県立博物館蔵 整理番号992

「米子御城御次ヨリ御居間向略図」  
鳥取県立博物館蔵 整理番号1045

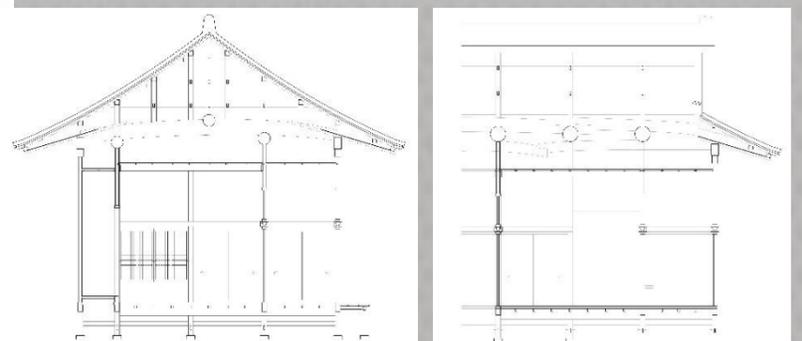
3枚を比較すると、廊下や外便所などの**差異**が見られるため、幾度か**増改築**があったようである



「米子城城門正門之御絵図面」  
鳥取県立博物館蔵 整理番号1030



「米子之図」  
鳥取県立博物館蔵 整理番号996



米子城二の丸御殿居間部分  
復元断面図  
作図：本谷菜月 (2015卒)

# 米子城 —石垣の見方—

米子城には**4つの時期**の石垣が残る  
石垣を見分けることにより築城の**過程**を追うことができる

米子城は  
石垣の博物館



■ **吉川時代**  
自然石の「野面積み」

■ **中村時代**  
自然石の「野面積み」  
角が「算木積み」

■ **幕末期の積み直し**  
「切り込みハギ積み」  
角が「算木積み」

■ **近年の積み直し**  
黒っぽいきれいな石垣  
(H12震災後積み直し)

足をかけて登れる

足をかけて登れない

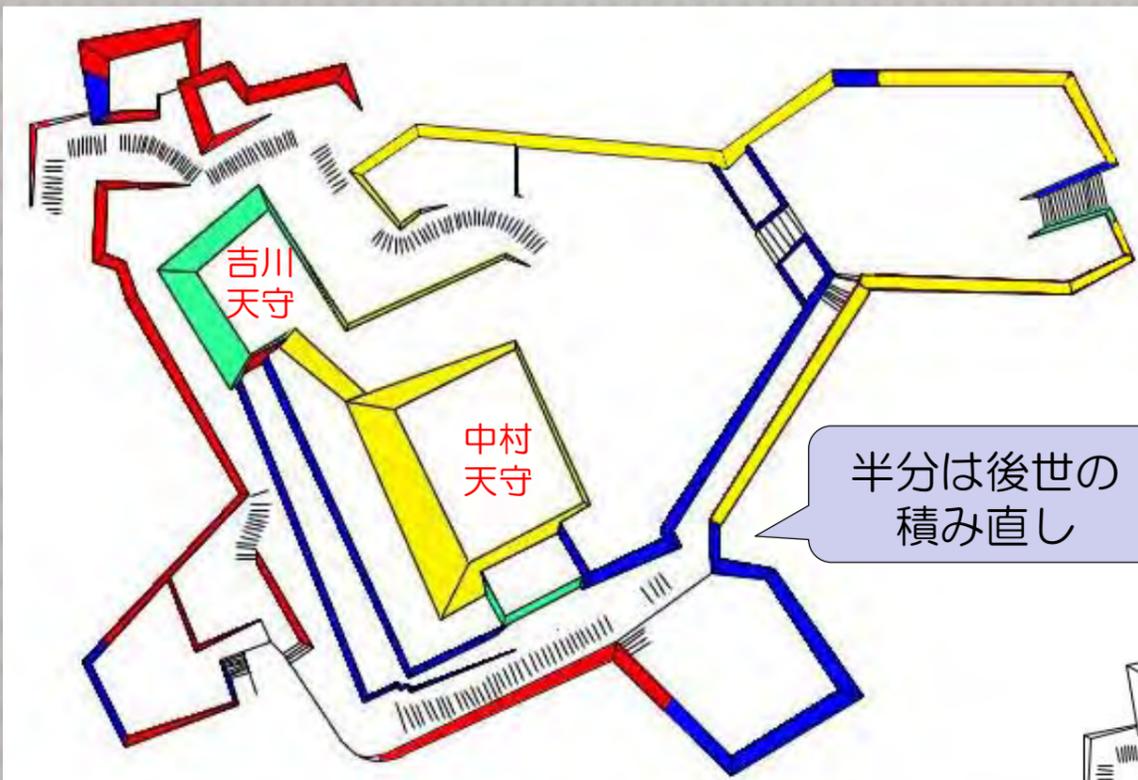
・「算木積み」とは？  
石垣の角は崩れやすいため、  
長い石垣を**左右交互**に積む  
最も**発達**した石垣の積み方



・石垣の石はどこから？  
地山の岩石を割るための  
恐竜の歯痕のような**クサビ穴**  
→**地山の岩**を砕いて本丸を  
築いた  
このあたりがもとの湊山の  
**山頂部分**



小天守台脇にある岩石→



半分は後世の  
積み直し

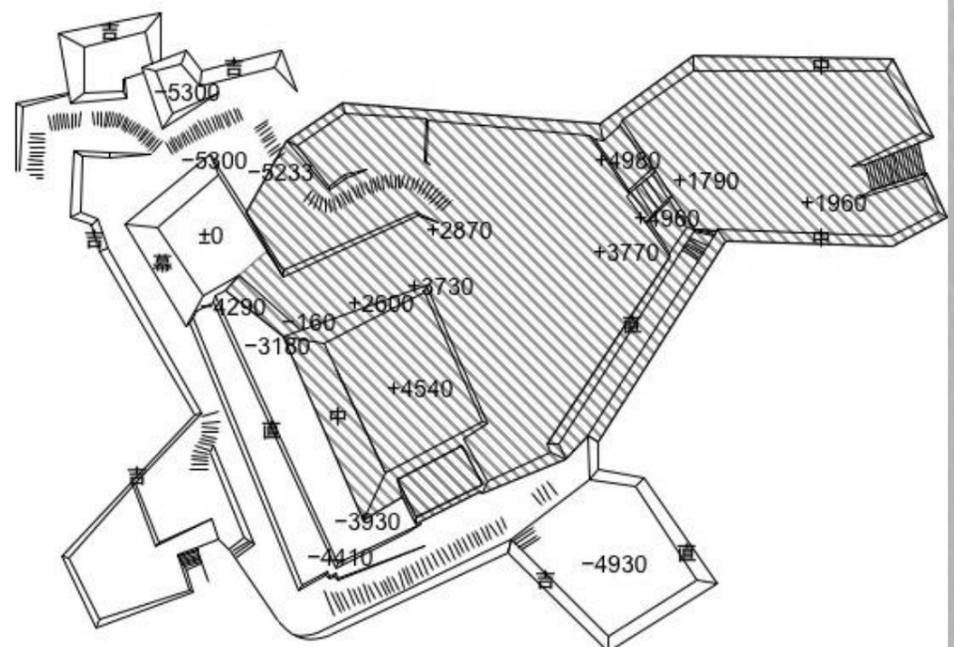
赤—吉川時代      緑—幕末積み直し  
黄—中村時代      青—近年積み直し

本丸部分の石垣を**時代**により分類すると左図のようになる  
さらに小天守を±0として各部分の**レベル差**を実測すると下図になる

吉川天守（小天守）より低い部分が吉川時代に築城  
(**ここまでしか完成していなかった**)

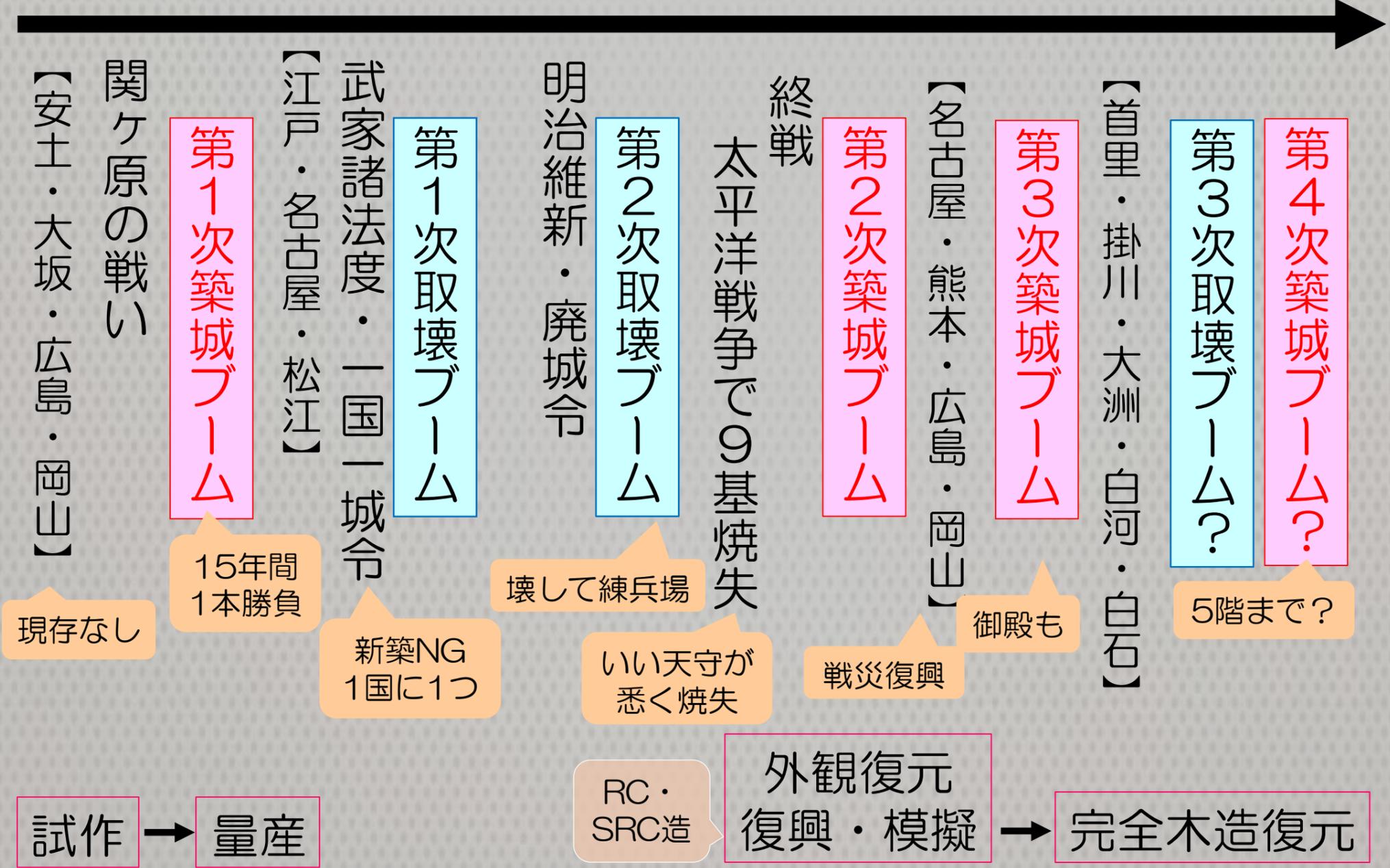
中村天守より北側（下図斜線部分）は中村時代に増築

米子城本丸部分の石垣の年代分類（上図）と石垣のレベル差（右図）  
作図：永井萌（2013卒）



# 城郭史 —天守の歴史—

1600 1615 1868 1945 2000 2020



1576年織田信長の安土城天守を初めとして戦国大大名の城に天守が築き始められる  
→米子城小天守はココ！=かなり古い初期の天守

1600年関ヶ原の戦い後の領地替えて、新たに天守を持った近世城郭が全国で急速に築城される  
→米子城大天守はココ！

1615年大阪の陣の後、武家諸法度・一国一城令で新たな築城禁止となる  
→事実上、日本の城の歴史はここで終わり 原則江戸時代は修復のみ

1873年廃城令でことごとく城が破壊される  
→米子城も例外なく取り壊し 天守に限っては全国で約160あったものが21まで減少

1945年太平洋戦争の空襲で天守9基焼失  
→現存天守は12のみ

戦後昭和30~40年代に戦災復興で焼失した天守を復元  
→焼失を嫌って木造ではなく鉄筋コンクリート造で外観のみ復元  
ついでに便乗して各地で観光目的のため天守が再建される

平成より文化庁の方針で国の史跡には史実に基づいた完全木造復元の天守しか建てられなくなる  
→天守だけでなく御殿や櫓・門も木造で完全復元が始まる ←今はココ！

今後、戦後にRC造で外観復元された天守が寿命を迎えるので、完全木造復元されるのでは？  
→木造5階建てまで許可される？

# 城郭史 — 取壊・焼失・現存天守 —

## 取壊天守

明治5年**廃城令**で取り壊された天守  
幕末に日本に入ってきた写真機で写された写真が残る



萩城 (山口)



津山城 (岡山)



高松城 (香川)



大洲城 (愛媛)



岡崎城 (愛知)



高崎城 (群馬)

## 焼失天守

太平洋戦争時の**空襲**で焼失した9天守  
広い城内には練兵場や軍事施設があったため空襲の標的にされた



名古屋城



広島城



岡山城



福山城



松前城



水戸城



首里城



和歌山城



大垣城 (岐阜)

※松前城は厳密には  
戦時中に失火類焼

古写真出典：  
『日本城郭古写真集成』  
小学館

## 現存天守

江戸期以前から現存する**12**天守  
数々の損失の危機を乗り越え、**奇跡的**に残った選ばれた天守



姫路城 (兵庫 国宝 世界遺産)



松本城 (長野 国宝)



犬山城 (愛知 国宝)



彦根城 (滋賀 国宝)



松江城 (島根 国宝)



備中松山城 (岡山 国指定)



丸岡城 (福井 国指定)



弘前城 (青森 国指定)



宇和島城 (愛媛 国指定)



伊予松山城 (愛媛 国指定)



丸亀城 (香川 国指定)



高知城 (高知 国指定)

# 城郭史 一天守の復元一

## 外観復元

鉄筋コンクリート造で外観復元された天守  
基本的に内部は資料館、最上階は**展望台**として利用

昭和30～  
40年代



岡山城 (昭和20年戦災焼失・昭和41年復元)

そろそろ寿命

広島城 (昭和20年原爆倒壊・昭和33年復元)

## 模擬天守

史実に基づかない天守を**昭和デザイン**で再建した天守  
基本的には犬山城天守 (国宝) をモチーフとしている

昭和40  
年代～



そっくり  
→



犬山城 (国宝)

長浜城 (昭和58年)

河原城 (平成3年)

館山城 (昭和57年)

大野城 (昭和43年)

## 木造復元

**史実**に基づき昔と同じ工法で木造復元された天守  
文化庁の許可を得るためには根拠となる**史料**が必要

平成～



首里城 (平成4年復元)

掛川城 (平成6年復元)

白石城 (平成9年復元)

大洲城 (平成16年復元)



木造3階までの  
建築基準法を  
破った初天守

熊本城 (平成19年復元)

松江城 (平成13年復元)

御殿・櫓・門を  
精力的に復元



櫓を復元



# デザコン

—二の丸御殿を防災施設として提案—

こちらのパネルと模型は、2015年11月14日（土）・15日（日）に和歌山市で開催された「**全国高等専門学校デザインコンペティション**」に出展したものです。

今年度の創造デザイン部門「**災害から生活環境を守る**」という課題に対し、加茂川が氾濫し水害が生じた場合を想定し、米子城二の丸御殿を**防災拠点**（一時避難所）として利用することを提案しました。

結果、エントリー26作品のなかで**優秀賞（第2位）**を受賞しました。

米子城二の丸御殿の視覚的な復元模型をご覧ください。

※あくまでコンペにおける提案なので、災害等ご心配なさらぬようお願いします

デザコン当日の様子



2015年12月26日 日本海新聞記事

## 全国高等専門学校デザインコンペティション2015 in 紀の国わかやま

### 最優秀賞・国土交通大臣賞「構造デザイン部門」

優秀賞「創造デザイン部門」、審査員特別賞「空間デザイン部門」

デザコン日本一

## 9連覇

独立行政法人 国立高等専門学校機構      ホームページはこちら▶<http://www.yonago-k-archi.com/>      米子高専建築      検索

## 国立米子工業高等専門学校建築学科

**ごあいさつ**  
国立米子工業高等専門学校 校長 齊藤 正美

11月14日（土）、15日（日）に和歌山県民文化会館で行われた「デザコン2015 in わかやま」において、米子高専チームは、構造デザイン部門での最優秀賞（国土交通大臣賞）を含む3つの賞を受賞することができました。今年度は、構造・空間・創造・AM（3Dプリンター）の4つのデザイン部門で熱戦が行われましたが、本校は9年連続でいずれかの部門で最優秀賞を獲得しています。特に構造部門では今年5年連続最優秀賞という快挙を成し遂げました。この部門の本校学生の活躍については、去る6月にNHKの人気番組「超絶!凄ワザ」にも取り上げられ、米子市と鳥取県の名前を全国に知っていただくことができました。保護者の方々や地域・自治体の方々にも多大な御支援をいただきましたことを改めて深くお礼申し上げます。

今後とも本校学生の活動状況をみなさまにご紹介するとともに、米子高専の教育活動により一層のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

構造デザイン部門

**課題テーマ：メタルブリッジコンテスト（エントリー作品55作品）**  
作品名「**叶和夢**」 久代拓也（5年建築）・足立勇仁・角田幸輝・坪倉那奈・松本涼太（4年建築）・谷口京（3年建築）

今年度は前人未踏の5連覇のかかった大会となり、とても大きな重みと責任を感じました。昨年は木製のタワーだったのに対して、今年度の競技では接合方法にハンダを使用した鋼製のブリッジを製作しました。ものづくりセンターでハンダ付けの実習を受け、60体にも及ぶブリッジの製作と実験を繰り返した結果、軽量で強いブリッジを作り上げることが出来ました。多くの方が協力をしてくださり、苦しいことや辛いことがあっても最後までチームでささえてきたからこそ、5連覇という大きな結果を出すことが出来たのだと思います。ご支援ありがとうございました。（久代）

▲競技中の様子

▲事前準備の様子

創造デザイン部門

**課題テーマ：生活環境を災害から守る（エントリー作品26作品）**  
作品名「**人は城!人は石垣!人は堀!!**」 本谷菜月・松下華子・箱木那（5年建築）・國米岳（建築学専攻2年）

▲プレゼンの様子

空間デザイン部門

**課題テーマ：地域強靱化のための道の駅デザイン（エントリー作品139作品）**  
作品名「**ダイコン猪 なかうみらいん**」 野津美晴（建築学専攻1年）

▲プレゼンの様子

**<本選出場>**  
作品名「**月匠乃繋手**」  
渡部航大（4年機械）  
小川祥吾・中山貴将・野津直樹・宮坂吉菜・中村駿希（4年建築）

パネル作成：米子工業高等専門学校建築学科 金澤研究室

# 米子城小天守軸組み模型

この模型は、米子城小天守の軸組み模型です。  
大天守に関しては現在の史料では内部は全くわかりませんが、  
小天守に関しては詳細な史料が残っているため、内部の柱や梁  
などを完全に復元することができます。

- ・一階が不等辺五角形に大きくゆがんでいること
- ・二重目の屋根部分の複雑な梁組  
梁を十文字にかけて屋根を支えている
- ・2階内部は柱4本だけ
- ・最上階（4階）は完全な正方形

を確認していただければと思います。

※手に取ってご覧いただいても結構です  
(壊れたら直しますので御心配なく)

模型作成：本谷菜月（2015卒）

